

シリーズ南城物語 3 浅野誠 2012年6月作成

# 南城の

# カフェ・レストラン・ 宿泊施設・ガーデン

## 目次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| a. 玉城・新原・百名             | 2  |
| b. 知念                   | 13 |
| c. 佐敷・つきしろ              | 27 |
| d. 富里・奥武島・堀川・糸数         | 39 |
| e. 私が選ぶ近所のベスト・カフェ・レストラン | 47 |

イノーから見る  
サチバル

カフェ・ホテルな  
どが見える



## a. 玉城・新原・ 百名

改装した山の茶屋楽水

一階はギャラリーに



山の茶屋の新しい可愛い看板

我が家から徒歩 10 分

山の茶屋裏庭





自然を生か  
した庭  
散策におす  
すめ



裏庭からの  
景観  
西南西方向  
奥武島の橋  
が見える

字玉城と中山海岸の前には、干潮でイノーが浮き上がっている。



南南西方向

向こうの岬  
は摩文仁

広がる太平  
洋





裏庭には巨大なガジマルがある

イノーから山の茶屋を見る。建物の右上あたりの森が裏庭だ





## 茶日和のバジルそば

なかなかの味だ

残念ながら。目下休業中

山の茶屋をやや西に行った場所

惜しまれながら休業閉店する店

も多い。

## オキネシアの庭園

我が家から徒歩 10 分余りの字玉城の丘にある。

山の茶屋から西側には、何軒かのステキな建物が、ここ 10 年間に建った。

オキネシアは長年の知人が建てた。我が家といくつかの植物交換をしたので、我が家出身のものがあるが、何だったか、記憶がない。

オキネシアという言葉は、ここが元祖。





## 海坐

オキネシアなどの建物  
と並んでいる。  
我が家から徒歩15分  
景観抜群  
コージーでおしゃれな宿



宿泊室からの眺めは最高だ。

窓からは海と、我が家中山集落の畑  
風景がよくみえる。

この建物もオキネシアも、我が家の  
隣人の「建築意思」の設計施工。

## 浜辺の茶屋

額縁ともいうべき窓から海を眺める

このあたりの「しにせ」で著名なのだが、近年出版された小林ゆう子『奇跡のカフェ 沖縄「浜辺の茶屋」物語』でさらに話題は広がった。

小林さんにお会いする機会があったが、その際私の『沖縄田舎暮らし』をさしあげたら、数日後、小林さんが書いた『奇跡のカフェ 沖縄「浜辺の茶屋」物語』（河出書房新社2008年）が送られてきた。登場人物のほとんどがよく知っている方々だし、しばしば出会い、ユンタクする。登場人物で知らない人を探すほうが難しい。そして、登場する話、景観などもなじみ深いものが多い。「あの話は、ああそうだったのか」とつながりがつくこともある。

この本は、県内外から訪問してこられる方にとって、このあたりになじみを感じさせるいい本だと思う。また、通過型観光から一步踏み込んで、自然・景観・空気をゆったりと味わうことへと進むための、いい案内書だと思う。また、沖縄観光のありようを考えるうえで、とくに大会社による観光ではなく「手作り」型観光に取り組む人々にとって、貴重なヒントが満載されている感じがする。

私の「沖縄田舎暮らし」は、この地で生活を始めている人、始めたい人に発信する本なので、少し角度が異なる。観光から踏み込んで、生活を始めると、まったくとっていいほど異なる世界に入り込む。時々移住相談がある



のだが、観光と生活とはかなり異なることなのに、観光の延長で生活を考える人がいる。そういう人は、むしろ那覇などの都市に住んで、時々この地にこられるのがいいだろう。

さらに、この地域に長く住み、この地域のありようにもかかわらなくてはならなくなると、さらに異なる。

外からのまなざし・体験と内からのまなざし・体験ということでは、この本は、どちらかという、まだ「外」に居て、「内」に少しずつ入り込もうかどうしようかと考える本だ。

その意味で、外と内とをつなぎ、協同作業へと向かっていくうえでの、ヒントも与えそう。

それにしても、よく書かれている。著者が長くこの地に居たかのように、実感的に物語的に描かれている。だから、この本をネタにユンタクするのもいいだろう。まさにカフェにふさわしい本なのだ。

イノー  
から見  
る浜辺  
の茶屋





## 百名伽藍

建築前から話題になっているホテルだ。2008年11月には新聞記事にも取り上げられ、その時、私はこんなことを書いた。

今朝の琉球新報に「JCC 玉城にホテル 来春にも着工 県内外食産業が初進出」という記事を見つけた。国道331から中山に入り、我が家近くを通過して新原に行く道路で、新原ビーチに入る直前の場所だ。

浜辺の茶屋のすぐ近くで、以前には、「ペット連れ歓迎」のカフェがあり、その後「玉城食堂」があつて、一風変わった沖縄ソバを提供していたところだ。

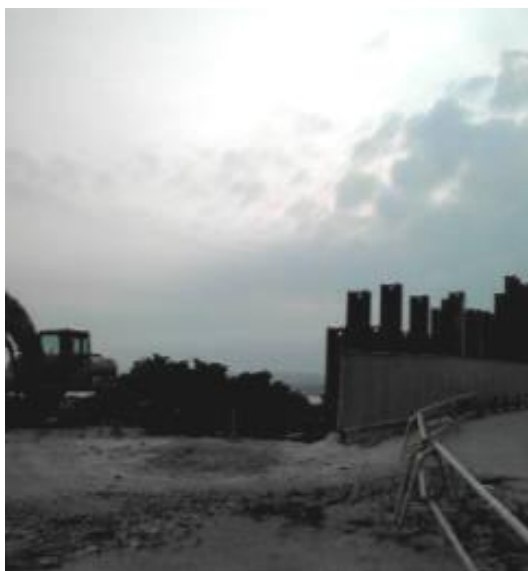
その海岸は、私たちが愛している場所で、しばしば散策する。私たちが「一カ月10万円生活」のテレビにでた時も、その海岸で撮影した。恵美子のブイアートを撮影するのもそのあたりだ。

そのあたりは、「知る人しか知らない」ところだ。ホテル建設によって、これまでの雰囲気



気がこわれなことを希望する。

ホテル建設の話は以前から耳に入っていたが、ようやく本格化したということだろう。経営主体はJCCということだ。JCCといっても私にはわからないので、ウェブで調べたら、「わだや」という名称も使用しており、南風原ジャスコに三つ店舗を出しており、私も利用したことがある。また、「玉城食堂」を一時運営していた。



「地産地消と自然との融合をテーマにしたリゾートホテル」ということだ。部屋数は12で、他に丘の中腹にコテージ6棟をたてるという。一泊3～5万円という高級ホテルだ。

この付近には、ペンションはあってもホテルはない。その意味では、関係業界がホテル建設にいつかは動き出すだろうと思われるところだ。ホテル用地周辺は、もともとの地域の生活とは少々離れて「都会人」が好む「あかぬけた」雰囲気をもつところだ。

※文中写真は、工事中のもの。

1枚目は、2010年6月。イノーから写す

2枚目は、2010年7月6日。すぐ近くから写す

下は、完成後の写真。イノーから写す









## カフェ海風

アグー肉を売りにしている  
ようだ。

百名から新原に行く途中、

新原の急坂に入る直前の店。

店の中は、こぢんまりと、いい感じ。

入ってすぐに、「目玉」のガ  
ジマルの「ツリーハウス」め  
いたところを登る。『キジムナ  
ーの家』という看板だ。

こういうのが、私は大好き。  
我が家でも作りたいな、とい  
うと、恵美子は「マンゴーの  
木につくったら」という。「な  
るほど」と思う。時間をかけ  
て考えてみよう。

この「キジムナーの家」か







ら見る新原の景観は一級品だろう。

食事は、アグーの焼き肉ランチをいただく。美味しい。私が肉好きだったら、はまりそう。

### カフェやぶさち

百名の藪薩御嶽近くにある、大変「アカヌケした」洋風レストラン。大人気で、行列ができることしばしばだ。

ここからの眺望はすごい。写真は、逆に、眺望対象のイノーからの撮影だ。



## c. 知念

### シャングリラの庭園

はんばな広さではない。山一つまるごとに近い感じ。

半島芸術祭の中心担い手の一

人

の安和さんが半生をかけて作り上げた。



もともとの自然を生かした庭園だ。

一度は訪問されることをお薦めする。







## Cafe 森のテラス

久高を見下ろす絶景の庭シャングリラの一角。

場所は、知念の県営団地の隣

ハウビカンジュの新芽のサラダ

野菜サラダの上に乗っている。シャングリラの岩山に自生しているとのこと。わらびに似ている。初体験。

他の野菜も地元野菜。



## 芝居茶屋にらい+かない 劇場

写真の上部はニライカナイ橋  
芝居ができる広場と観客席も  
ある



久高・太平洋を

のぞむ絶景

左側がレストラン建物

右側が舞台になる芝生







にらい膳、かない膳

本格的琉球料理風

上品な雰囲気

地産地消

仮オープンの時に訪問

2008年9月10日

正式オープンになり、祝賀パーティーが開かれた。

座が盛り上がると、当然キャーシー。

先頭を切って平良トミさんが踊る。私の目の前。このあと、



トミさんは私を引っぱり出す。いっしょに踊る。ツーショットである。「人生の思い出」になるだろう。彼女は、その後ずいぶん長い間、たくさんの人と踊り続けた。

かわいらしいおばあの雰囲気。

ここの食事はなかなかだ。どこで、こんなに利き腕のシェフを見つけてきたの、と思わず、私は尋ねてしまった。ケーキやパンを担当する方も、牛乳や白砂糖を使わないこだわりの味だ。

さすが、芸術にかかわる人がつくった店だと感心する。



沖縄で絶大な人気のお笑いコンビいずみ&やよいは、実は恵美子の教え子なのだ。キリスト教短期大学時代の最後の教え子というわけ。2年ほど前にも我が家を訪問してくれた。

その時以来の出会い。

今回も楽しいコントをみなさんに披露。ピンボケ写真で、すみません。

## 南城市長挨拶

沢山の著名人が参加

南城市の「精力的でおもしろい」方々が何人も参加していた。

久高からもこられていた。

この劇場も、南城市地域起こしの重要な場になりそうな気配である。



## チーフの大城さん



6月に訪問し食事したときに、受け付けで、彼女に出会った。恵美子は演劇関係の研究会で旧知だった。

この店は、演劇関係の人がたくさん仕事をしているが、彼女もその一人のようだ。

6月、彼女とエーシーオー沖縄社長の下山さんが、「ハブよけになる」



ハーブということで、我が家にレモングラスをとりにこられた。無事育って、ハブよけになっているかどうかは、まだお聞きしていない。

他にもハーブを何種類かおすそ分けした。管理がよく、盛んに育っている。

### 平良進・トミ夫妻による乾杯の音頭

この芝居茶屋にいかない劇場は、演劇芸能関係の業務をするエーシーオー沖縄が運営する。キジムナーフェスタでは中心的役割を果たしている。

平良進・トミご夫妻も、この事務所に所属している。

乾杯の音頭のあいさつは、夫妻ともどもほとんどがウチナーグチ。でも、とってもきれいなウチナーグチで、私も半分近くわかった。



戦争直後は、あちこちに、たとえば百名にも野外劇場があったが、その再現が、このニライカナイ劇場の屋外ステージだといったことも話された。

ニライカナイ劇場 日の出前音楽

2009年1月1日

今朝は5時に開いて、新年音楽の集いがあった。

音楽演奏は、カリンバ、ギター、三線、サックス、太鼓などで、知人たちが演奏した。

写真はカリンバを演奏する近藤ひろみさん



お雑煮

お雑煮かイナムドゥチのどちらかを選んで食事。

知人も多かった。会うたびに「おめでとう」のあいさつ。

正月ムードがでてくる。

ニライカナイ劇場でのジャズ  
「音楽とお月さま」

ジャズとは縁遠い私だが、  
ともかく楽しむ

屋外で行われる予定だったが、  
天候のため、室内で。

ぎっしりの満員盛況だ。演奏者に友人のお子さんがいる

ので、参加したというわけ。これがジャズに親しむきっかけになれば、と願う。ジャズは異質協同というか、個々の楽器が個性的に自己主張しながら、創造的にハモる感じ。私もだんだんノッテくる。



ニライカナイ劇場の屋外ステージ

ある日、これから芝居が始まろうとするところで舞台の写真をとったが、雨がぱらつきはじめ、屋内に移動することになった。残念。



おもしろさ満喫の  
「リア王」

ニライカナイ劇場の  
広い屋外ステージで、  
それでも「所狭し」と  
演じられた「リア王」。  
出演者の演じる場、登  
場してくる場、さまざま。  
ステージ上では、  
透明鏡と壁の機能を備  
えたパーティシペイシ  
ョンめいたものが巧み  
に使われる。



音楽は、三線・太鼓・胡弓にベース・キーボードなど複雑に織り交ぜる。  
三線奏者が「謡」もする。

照明は八方から、そして上から下からさまざまになされる。立木も舞台設  
定にからまる。夜空のステージに映えるカラフルな衣装。

ウチナーグチとヤマトグチを織り交ぜる。オペラも入り込む。ウチナー芝  
居でもあるし、新劇でもある。「アクションもの」風の激しい演技。

チャンプルー文化を巧妙に展開するといった感じ。

私はドラマ展開よりも、こうしたことに関心が向き、心奪われた。やって  
みたい気持ちもそそられたが、観て楽しむ分にはとてもいいが、やってみる  
などとは、わたしなどにはとても遠い世界だと、現実にはちかえる。

我が家から10分ぐらいのこんな近いところで、こんな素晴らしいものを観られるなどとは、幸せだ。かつ、都会では信じられないほどの安価だ。お金はかからないが、文化的には、ぜいたくな田舎暮らしだ。

ニライカナイ劇場のハーブ園から海を見る。

我が家出身のハーブもある。



## レストランオーリーブの木

数年前、愛知県から移住して始められたという。

知念小学校横の道をのぼっていくと、ほぼ突き当たりになりそうな場で、結構大きいレストランだ。



1日15食限定という、プレート注文。なつかしい「天むす」が入っている。愛知「特産」だろう。おむすびにエビ天が入っているものだ。

味は、愛知的な雰囲気を感じさせるが、薄味だ。

食材に、ゴーヤやオクラなど沖縄のものも使っているが、全体的に愛知風と言うか、本土風というか、沖縄風のものはない。南城のカフェ・レストランは、多様なものがあるが、ここもその一つだろう。



海方向の景観



## ポランの広場

このあたりでは、「しにせ」格だ。

雰囲気がとてもいい。隠れ家的な印象さえ漂う。

久高と朝日がステキな場だ。



## Cafe 海の香

おとぎの世界か、地中海的雰囲気なのか。

## 海のイスキア

### のガーデン

内観の施設があるところだ。

久高・コマカが絶景だ。眺めながら内観するのは、絶好の舞台設定だろう。



## 沖縄長生薬草本社のガーデン

以前から何度も訪問し、食事したり、ハーブ苗を購入したりしていた。

ガーデンが随分美しくなっている。レストランの味もよくなっている。

庭？畑？のハーブ・薬草は、初訪問の7年ほど前は名前さえ分からないのが



ほとんどだったが、今では8割ほどは栽培経験があり、5割ほどは我が家で育てている。名前を初めて知ったものは、「専門的なもの」が多く、私には手が出ないな、と思う。

知念と佐敷の境目あたり

## c. 佐敷・つきしろ

八風畑…知念の丘の上

カフェと黒糖工房

目の前に砂糖キビと太平洋

親慶原からつきしろを過ぎて、刑務所とくるくまの中間にある。



沖縄野菜いっぱいのピザ

八風畑の昼食のピザだ。はんだま、ゴーヤ、チヂークニなど。なかなかいける。



私たちが入った後、たくさんの方が行列をつくった。サイクリンガー行だった。

この八風畑は、景観の良さもあるが、ややワイルドな感じに特性を出しているのだろう。

鶏もヤギもいた。



つきしろの街にもステキな店が多い。今回は、二つだけ紹介させていただく。

## カフェ・ リキュール



落ち着いた雰囲気。

観光客さんも入るだろうが、地元客が楽しめる感じだ。常連さんが多そう  
だ。

元々は、店名にもあるように洋風居酒屋志向だったようだが、お客さんが  
カフェ・レストラン方向にしたようだ。

食事の値段も手ごろ。席を立とうとしたら、豪華なデザートが出てくる。  
こんなにサービスされて申し訳ない感じ。次回、誰かをつれてこようか、と  
話す。

入った途端に、中城湾の景観が広がる。この絶景も趣豊かだ。

座席からガラス越しにとった佐敷から中城湾の景観。中央森の中に見える大きな建物が、私が卓球をしているさしきスポレクセンター。



## 美 良 夜 海

(みやらび)

つきしろに  
あるカフェ。命  
名が印象的。

ここから見  
る中城湾は最  
高だ。



とても静かで、いろいろと凝った店づくりだ。食事も手がかかっている。



写真正  
面が佐敷  
干潟。





### 本村英勝さんのガーデン

つきしろの街の道路沿いに花が溢れるコンテナを並べておられる。

### 津波古義治さんのガーデン

親慶原在  
庭だけでな  
く森もある。  
格が違う。  
驚き。





フェアトレードの店 風の里

佐敷の新里ビラ途中

レストランと併設



酵素玄米御膳とパンプレート

食事メニューは、この二つが中心

すごく工夫され、手がかけられた自然食

## 丘の茶屋

佐敷の新里ビラ近くに近年誕生したカフェ。

南城のカフェは、丘の上から



海を見下ろす景観を売り物にするのが多いが、ここの視線は少々地上寄りで、人々の生活の呼吸を含みこんだ景観だ。

上写真は、建物前から佐敷中央部方向だ。向こうの山は「すくなむい」。

食事は、焼きカレーを初体験した。普通のカレーライスの上に、チーズと野菜などをのせて焼いたものだ。これがなかなか美味しい。



琉球ゴルフクラブ入口  
近くの「島ごはん・カフェ  
くんみ」

チャンプルー三昧セット  
という名前がおもしろい。



ここで、くるくまに登場してもらいたいのだが、あいにく写真がない。  
超人気の老舗なので、私の出番などないということで、ご容赦願いたい。

もう一つ、失礼させていただくのは、チャーリー。歴史が長いので、私たちの付き合いも 40 年近い。



## ユインチホテル

我が家から、知念半島を縦断して、親慶原経由で、佐敷に下る新里ビラ直前を左折した場所。我が家から車で10分余り。



### 誕生日にユインチホテルで夕食

2009年10月12日63歳記念に、二人で行く。

厚生年金施設の旧ウェルサンピアで、2008年からユインチホテル南城となる。

一時、南城市役所になるとの話もあったが、結局民間経営となる。

6階の展望ラウンジ「むるぶし」中城湾方面が絶景。





料理は琉球籠御膳とビーフシチュー。愛知でこんな料理を食べると倍近くの3000円ぐらいだった。

近年定番になったバイキングにも時々行く。超満員で、行列ができることが普通。でも、おいしい。口コミ評判らしい。

2012年2月まで続いた湯処「さしき

の」は、4月から「猿人の湯」と改装改称。休憩所から見る中城湾は絶景だ。

浴場からの方がもっと美しい。夜景もいい。

ホテルの宿泊棟前で、温泉目的のボーリングが行われ、2010年2月8日、湯が噴出したという新聞報道があった。

2年後、「猿人の湯」として再出発。

スタート後、肩痛治療も兼ねて、1ヶ月に4回も楽しむ。

2回目の後で書いたメモを紹介しよう。





1) 筋肉痛に効く。ちょうど、肩の筋肉を痛めているので、これ幸いと長時間入浴。痛みが緩和。

2) 2月までの800円が、1500円と高くなった。回数券などの割引を使えば、安くなるが。

その影響かどうかはわからないが、「銭湯」気分の地元客の数が減ったかもしれない。

観光客や都市地区からの客に少しばかりシフトしそうだ。

3) 敷地内掘削で掘り当てた温泉のかけ流しだ。那覇のリッカリッカの湯、長良川温泉、有馬温泉などと似た印象。食塩泉で舐めるとしょっぱい。

赤茶色という個性的で強烈な色なので、好みの問題がでそう。乳白色や緑色、あるいは無色透明といった、よくある温泉とは異なる。

4) 男湯では、ミストサウナ・薬用湯がなくなったのは残念。女湯にはミストサウナが残っている。

5) インテリアは赤色を基調

6) 「猿人の湯」というネーミングが、強烈で好き嫌いがでそう。猿人が生きていた頃の古い湯が湧き出てくるのが命名の理由だ。

7) 他は旧施設を受け継ぐ。景観の良さは変わらない。リラックスルームも畳部屋が出来たが、そう変わらず、いい気分。

本格的温泉なので、試す価値はあると思う。



## 知念恩栄さん

### のガーデン

元左官業を営んでおられたとのこと。その腕を庭づくりに生かしておられる。



花育ては奥さんの役割が大きいとのこと、夫婦合作の絶品の庭だ。私の素朴な庭作りからみると、プロ作品だ。

## 楚南幸明さんのガーデン



佐敷スポレクセンターの近く。

岩などで美しく組み立てて作られている。

御主人が、ランニング1万日記念の碑をたてておられる。感心、感心。

## 識名善光さん

のガーデン

無数といってよいほどのランを屋外で育てておられる。



「すごい」の一語に尽きる。

## d. 富里・奥武島・堀川・糸数

旧玉城の中央から西にかけては観光地化されていないので、地元の人の利用が多い。といっても立ち寄る観光客もいる。ここらに立ち寄る人はなかなかの「通」だろう。



### タイ料理シヤム

行きつけの美味しい店

本格的タイ料理

私たちは、いつも 3~4 皿頼んで、取り分けて食べる。

南城市役所近く。玉城国民体育館入り口。

女主人は卓球仲間だった。万能のスポーツウーマン。タイの踊りの高水準の踊り手だと聞いている。いつか拝見したいものだ。

右は近隣の方々と楽しんだタイすき。バンコクで食べて以来、何年ぶりだろうか。ダシと香辛料でいい味が出る。要予約。







レモングラスサラダ

初体験。なかなかいける

レモングラスの茎（葉？）の根に近い  
個所

それに他のハーブなどが入っている。

## Owl Garden

小さな山小屋カフェ

花が溢れる。いや溢れる以上。  
上。

バラがたくさん

花の種類は、数えることが  
できない

傾斜面、平らなところ、場  
をとともうまく活用

カフェの建物だけでなく、  
ウッドデッキ風の通路もすご  
い。夫婦共同創造の庭・カフ  
ェという感じがすごくいい。



可愛いぬいぐるみのふくろうが一杯。オーナーの手作り。ふくろう収集に興味がある私としても、興味津々

ランチプレートがいい

- ・訪問日は梅雨空で見えなかったが、いつもは太平洋がきれいだろう。
- ・お店風ではなくて、自宅風がいい。
- ・集落のなか、玉城小学校の隣という、人々の息遣いも感じられる。

黄果報 (くがふ) 膳

玉城堀川のカフェ



地元食材でつくる

ハーブの話で、オーナー  
と

盛り上がる

親子で楽しくサービス  
なさっている。

店は、IKEA 風。世界を  
旅してきたオーナーらし  
い。

## カフェ・チチ

手作り子供服を中心に、可愛いものがいっぱい。

南城市役所近く



## ベジタリカ

野菜カレー

上品で、手作り感覚、おいしいカレー

糸数の高台の端にあり、西方向の景観が抜群。





2008年7月27日  
クンナトゥ10周年

モズクそばの店

我が家から徒歩10分で、  
奥武島への橋のたもと。

クンナトゥとは、「ちいさ  
な港」という意味だ。



### 奥武島海産物食堂の刺身定食



30切れの刺身。

ふと、東京の刺身定食  
では、5~6切れだった  
な、とってしまった。

奥武島漁港の向かい。

## 津波古繁正さん のガーデン

奥武島入り口だ  
から我が家近くな  
のに、初めて拝見す  
る。すごく手入れさ  
れたすばらしいお  
庭だ。



## 東仲與根秀雄さんのガーデン



當山公民館近  
く。

インパチェン  
スの花盛り。写  
真は屋上からの  
撮影。

## 大城美衣子さん

のガーデン

當山

花が咲き誇り合  
っている印象。



2012年春のオープン・ガーデンの企画の際、合計10ヶ所ほど拝見した印象を次のように書いた。

皆さん、手間と時間をかけておられる。お金をかけておられる印象の方も多し。たとえば数十年の時間をかけて築きあげられた津波古義治さん宅は信じられないレベルだ。

それぞれの庭にはテーマがある。そのテーマは立地条件とお住まいになっておられる方の嗜好によって決まる。テーマを、主役の花の種類で表現することもできるが、「落ち着き」「燦々」「宴」といった1〜数文字のキャッチフレ



ーズにするのも、アイデアのように思う。

立地の自然を生かしている庭、鉢・コンテナ中心の庭。工夫の域をこえていると感じる庭がほとんどだ。花は全体として、お店で販売されているものが多いが、もともとの沖縄にあったものがあったとしてもよいと思った。たとえば、インパチェンスだけでなく、ハウセンカ（ていんさぐぬ花）があつていいと思う。

拝見していると、我が庭のことを振り返ることになる。オープン・ガーデンにするレベルにはるかに及ばないことを認識した。かける手間・時間・金が、必要レベルの100分の1ぐらいだろう。

「自然に任せ過ぎ」かもしれないが、「確信犯」ではある。自然の流れに私が少しだけかかわって、出来上がる庭と言う感じだからだ。「こんな庭をつくろう」ではなく、年々自然が作っていく流れを生かそうと言うのだ。

## e. 私が選ぶ

# 近所のベスト・カフェ・レストラン

ブログに、こんな記事を連載した。

### 1. 景観の部

私の家（南城市玉城字中山在）近辺には、たくさんのカフェ、レストランがある。観光客だけでなく、那覇あたりから来られる方も多い。

「どこかお薦めはないですか」という質問をよく受ける。

その際、「何をポイントにしますか。味ですか。景観ですか。料理の種類・価格ですか。雰囲気ですか」などと聞いてから、応えることにしている。

無論、私たちが行ったことがないところはわからないから、行った経験があるところだけにとどめる。私たちは、月にだいたい2～3回こうしたところに出かける。そんな経験をもとに書こう。

私の家近辺といっても、広いから、おおよそ南城市市役所・花野果村あたりから東へ、知念岬あたりまでに限定しよう。

まず景観をポイントにしよう。

このあたりの多くの店は、海が見えることが売り物だ。そこで、どの角度からどの方向がどんな風に見えるかによる。

そこでまず、低い位置からイノーを視野にいれつつ、太平洋を見る、という点からいうと、「浜辺の茶屋」だ。

少し高い位置から、サンゴ礁と太平洋を木々の間から見る、という感じでは、「山の茶屋」と「Cafe 森のテラス」だ。

もう少し高くなって、サンゴ礁と太平洋を見渡す、見下ろすという感じでは、「やぶさち」と「芝居茶屋ニライカナイ劇場」だ。

ぐんと高い位置から、となると、「くるくま」になる。

いずれも、景観がいいから、どの景観を選ぶかは、好み次第だ。また、他のポイントと組み合わせて考えるしかない。

海の景観がポイントだから、これらの店のほとんどの開店時間は昼間だ。おおよそ10～11時から、5～6時だ。例外はあるが、夜間はないと思った方がいい。

## 2. 料理の種類と味

洋風カフェということでは、「やぶさち」だろう。パスタなどをおしゃれに出してくれる。

「品のある沖縄風」ということでは、まず「山の茶屋」。メニューは少ないが、オーナーが自信をもってつくる。王朝料理ではなく、庶民の沖縄料理を品性あふれる形で出してくれる。「品のある沖縄風」のもう一つは「ニライカナイ劇場」だ。ここのシェフはなかなかだ。若くて、こんなに実力のあるシェフはそうはいない。創作の雰囲気も伴う。

以上は、フルの食事だと1000～1500円。軽食だと1000円にはならない。

ちょっと変わって、タイ料理の「シャム」。本場タイの雰囲気。奥様はタイ出身だし、店内もタイ風。1品600～800円ぐらいのものをいくつか注文して、取り皿にとって食べるのが、私たちのやり方。一人当たり1000円を超せば、食べ過ぎになりかける。夜も開く。

純粹沖縄庶民料理を、魚を主体に出すのは、「奥武島海産物食堂」。私はここで、刺身定食か魚汁定食を食べる。刺身定食は、刺身25～30個出てく



る。それで1500円程度。夜も開く。

ちょっと変わったのは、もずくそばの「くんなとう」。もずく攻めに近いほど、いろいろなもずく料理がついてくる。もずくそば定食でも1000円もしない。

これらの店は、7、8月、特に土日、特に食事時は、満席状態がごく普通だから、事前予約をおすすめする。

カフェ・レストランの「激戦地」であるこのあたりでは、知らぬ間になくなっていることもよく見かけるが、私が選ぶ店は長く継続している店が多い。

### 3. プレミアム

景観、味以外に、その店に特徴的なプレミアムがある。ならべていこう。

#### 「やぶさち」

徒歩5分のところに、聖地として齋場御嶽とならぶ、ないしはそれ以上に重要な「藪薩御嶽」がある。その御嶽から徒歩1分で、これまた素晴らしい景観の場がある。ただし、これらは知る人ぞ知る場。訪問する際には、聖地にふさわしいふるまいが必要だ。

#### 「山の茶屋」

表の100段の階段の周りの美しい光景は、誰でも気付く。裏の庭園が素晴らしいことは知られていない。自然の大部分をそのまま生かして美しい。ヤンバルの自然だけでなく、南部にもこういう自然がある。しかも入場無料。

#### 「浜辺の茶屋」

目の前のイノー散策がいい。ここは私たちが日常的に散策する。水に濡れ

てもいい履物が必要。コンサートなどの企画もしばしばだ。

この3ヶ所周辺は、散策道がいろいろある。私たちの日常の散策場だ。聖地、文化財も含め、「癒しのスポット」といわれるところが多い。

### 「Cafe 森のテラス」

なんといっても広大な自然庭園だ。知念の自然の良さを生かした「シャングリラ＝桃源郷」だ。個人がコツコツ整備したというから驚きだ。庭園内の散歩には、1時間近くかけてゆったりと回られることをお勧めする。運よく庭園主がおられたら、お話も聞ける。

### 「芝居茶屋ニライカナイ劇場」

野外劇場が特徴だ。芝居人というか演劇人がつくったのだから当然だ。時々ある上演の機会を逃さないでほしい。著名な役者も登場する。ウェイター・ウェイトレスが役者だったりもする。芝居だけでなく、音楽コンサートもあります。変わったところでは、元旦の日の出を見る会もあった。

紹介してきたカフェ・レストランの方々とは近隣ということもあって、たいいてい、いろいろなお付き合いがある。半島芸術祭 in 南城の中心であったり、沖縄市のキジムナーフェスタでのお付き合いがあったり、庭の草木を交換し合ったりするお店もある。我が家のハーブなどがお店の庭に移植されたりすることもある。無論、お店からいただいて、我が家の庭に植えたものもある。

これらの店は、景観・味・プレミアムを楽しむだけでなく、人々のつながりを生み出す場にもなる。お店の方、場合によっては、隣の席のお客さんとの語らいを楽しんでほしい。

紹介したすべての店が、我が家から徒歩か車で10分以内だ。